

佳作

共通文化を大切に

鹿児島県 鹿児島県立鹿児島中央高等学校二年 峯元 結萌

皆さんは二〇二二年二月二十四日に始まったロシア連邦のウクライナへの軍事侵攻について知っているであろうか。この軍事侵攻を始めたロシア連邦側の目的を端的にまとめると「ウクライナをロシア連邦に従順な国にするため」となる。現在、世界の大多数の国が戦争反対としているなかでのこの軍事侵攻に私はとても驚いた。私たちは戦争そのものを肌で感じた経験はなく、学校の授業や教科書、広島の原爆ドームなどから戦争の悲惨さ、二度とくり返してはならないことを学び次の世代へと受け継いできた。しかし、今回のウクライナへの軍事侵攻によって、リアルタイムでさらにカラーで私たちは現地の様子を知ることができている。

日本と離れたところで戦争のようなことが起きているなかで、私はインターネットで気になる記事に目がとまった。それは「クリスマス休戦」についての記事だった。第一次世界大戦中の一九一四年十二月二十四日から二十五日に、西部戦線各地で生じた一時的な停戦状態の

ことである。イギリスのある一人の青年が武器をもたずに手をあげて塹壕から出てきたのに対してドイツ軍も青年が武器を所持していないことに気づき、武器をお互いに近づきあい、クリスマスを祝ったそうだ。クリスマスは両国の共通文化だったため、ドイツ語と英語でよしの夜を歌ったり、家族や恋人の写真を見せ合ったり、空き缶などをボール代わりにしてサッカーの試合をしたりとクリスマスの楽しい一日を過ごした。この話を見て、私はとても感銘を受けた。まず、最初に行動したイギリスの青年の勇気がすばらしいと思った。敵と最前線に対峙しているにもかかわらず無防備の状態で行動を起こすにはとても勇気が必要だったと思う。またさらにすごいのは、ドイツ軍も武器を持たずにほとんどの人が裏切らなかつたことだ。もちろんこのクリスマス休戦をよく思わなかつた者も少なからずいたようだ。アドルフ・ヒトラーは「持ち場を離れて武器を捨てた者は撃て」と命令した。しかし、そのような状況下でも敵味方関係なく共通文化のクリスマスを楽しもうという思いで両軍の兵士が一致したことは私の心に強く響いた。

私たち人間はこの同じ地球上に住む仲間として共通している部分や似ている部分がどこかしらあると思う。食べ物や宗教、言語、衣服など様々だ。私は自分たち以外のグループと違う部分を見つけ出して揶揄するのではなく、共通部分を見つけ出して互いを理解し共存していく

ことが最も大切だと思う。また、他民族のことを理解するだけでなく、とりいれられるところはとりいれて共有することも大切だと思う。例えば、私たちは日本人で普段の会話でも日本語を使う場合がほとんどだ。それでも中学・高校の授業で英語の科目があることは、世界の人々とコミュニケーションをとれるようになることが目的ではないだろうか。現在では英語を話すことが世界中に増加しつつある。海外の観光客と日本で会ったときには学生時代に学んだ英語を活用することができる。他にも、世界各国の気候にあった民族衣装や各地域の宗教を社会で学ぶのにも同様の目的があてはまると思う。

最初に述べたウクライナとロシア連邦の問題においてこのクリスマス休戦のように共通文化で平和になることができたらいいのにと思い、私はロシアとウクライナの共通文化について調べた。すると、食事面での共通点が見つかった。ウクライナ発祥のロシア料理である赤色のスープのボルシチや両国の主食であるパンなどがある。もしかすると私が調べたこと以外の共通点もあるのかもしれない。ウクライナでは死者推定数が約二万人、死亡者を除く負傷者推定数が約五万二千人、避難している人が一千三百六十万人とされている。これ以上の被害が続かないように私たちにできることを探していきたい。また、国どうしだけでなく、友達どうしでも、価値観や性格が自分に合う、合わないだけでなく、共通部分を見

つけて理解しとりいれることでより円滑なコミュニケーションがとれるのではないだろうかと考える。